

019 小林忠治家寄贈目録について

1 小林忠治氏は須坂町役場・市役所職員として戦中戦後の時期に勤務、とくに学務課・文化財係などを担当され、その道に精通された方であった。

退職後は郷土史に専念され、「須高」にも何回か投稿されている。また、基本文献などの収集・新聞および記事スクラップなど丹念に整理保存されておられた。

2 亡くなられた後、“くだもの街道”の開設に伴い小林家に移転される折、遺族から上記資料について市へ贈与の話があり、博物館で頂き保管することになった。そのころ宮川孝男館長のと看で、溢れた新聞類は高甫公民館に預けられていた。今年高甫公民館長に赴任された一色館長から市誌編さん室なら資料として生かされるのではとの計らいで、編さん室に移管を申し出されたもので、それを受け入れたものである。

3 今回、市誌編さん室に移管された資料は、70点。小林忠治氏が購読された新聞類が中心である。「北信新報」・「須坂新報」・「須坂市報」・「須坂新聞」で、いずれも丹念に年度あるいは号数の区切りで整理、製本されたものである。

他に、国会議員・県会議員、市長選・農業委員などの選挙関係綴りがある。昭和20年代からの綴りがあるが、退職後は運動体の役員として綴ったチラシや役割表などがあって、選挙運動の末端の実態や選挙の裏が垣間見られる貴重な資料である。

平成20年12月12日 担当 青木廣安